

主の御使い
コナーズビル インディアナ州 アメリカ合衆国
1953年06月04日

- 1 今夜、この「主よ、私は信じます」というインスピレーションを与えてくださった主よ、感謝いたします。
私たちは、かつて悪霊に悩まされた息子を連れてきた父親のことを思い起こします。
彼は「主よ、私の息子をあわれんでください。彼は悪霊に取りつかれてひどく苦しんでいます」と願いました。
主は「もしあなたが信じるなら、信じる者にはすべてが可能です」とお答えになりました。
その父は叫びました——「主よ、私は信じます。不信仰な私をお助けください。」
私は今夜、この会衆からすべての不信仰が取り除かれるよう、神に祈ります。
パウロが言ったように、「私が善を行おうとするとき、悪がすぐそばにある」のです。
ですから、神よ、今夜、私たちからあらゆる不信仰を取り除いてください。
そして、イエス・キリストへの純粹で、聖く、まじりけのない信仰が、今夜この礼拝を支配しますように。
私たちの欠けを赦し、いつの日か、主の恵みによって、上にある御国に入るにふさわしいあなたの子どもたちとなることができるよう、助けてください。
どうかあらゆる面で私たちに祝福してください。
今夜、神を知らない者を救ってください。
背を向けた者を再び教会に、そして神のもとに連れ戻してください。
迷い出た子どもたちを神の恵みに戻してください。
主よ、今夜、すべての病める人、苦しむ人を癒してください。
あなたの聖徒たちを祝福し、彼らが神の栄光に喜び踊ることができますように。
このすべてを、あなたの御子、イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。
(どうぞお座りください)
- 2 主イエスに仕え、感謝をもってその宮に入り、
主の祝福を人々に知らせることは、何という喜びでしょう。
今日、この世界において、イエス・キリスト以上に語るに値することがあるでしょうか？
そうは思えません。
ある人が私に言いました。
「ブラナム兄弟、あなたはイエスのことをほめすぎです。」
私は答えます。
「いいえ、そうは思いません。
私は、イエスが私の口から出るどんな賛美の言葉にもふさわしいことを知っているのです。
私は十分に言い尽くせません。
彼はそれほどに尊い方です。
だから、私は彼を賛美し、祈り、愛します。」

私たちはどれほど愛しても、愛し足りることはありません。」

3 そして今夜、私たちの集会はすでに半ばに差しかかりました。

来週の火曜日には、この集会の最終夜を迎えようとしています。

どうか多くの人々が周りを見渡し、立ち止まり、そして主がこの場所でなされた御業に心を留めてくださいますように。

不自由な人々が語りかけられ、癒される瞬間を見てください。

今朝も申しましたが、私は集会が終わると、まるで夢を見ていたかのような気持ちになります。

聖霊が降り注ぎ、私たちを包み、神の臨在の中に引き上げてくださるとき——

その瞬間のすべてが、まるで夢のように感じられるのです。

多くの方がこう言われます。

「ブラナム兄弟、ただ人々を前に呼び出して、祈ってあげるだけでよいのではないですか。」

確かに、それも一つの方法でしょう。

けれど私は、主からいただいた賜物を、主の導きに従って用いるよう努めているのです。

他の国々では、この方法が驚くほどよく働きます。

しかし——アメリカほど、福音を語るのが難しい国はありません。

私はこのことを、聖書の上に手を置いて、敬意をもって申し上げます。

もし今夜この世を去るとして、世界のどこか一つの国に

「最も福音を必要としている国」を選ぶなら——

私は迷わず、アメリカ合衆国だと言うでしょう。

そうです、皆さん。

4 なぜなら、教育を受けた異教徒ほど、神に触れにくい者はないからです。

「異教徒」とは——すなわち、「不信者」のことです。

そして教育を受けた不信者は、しばしば心が硬くなり、触れることが難しくなるのです。

彼らはあまりにも多くを知りすぎていて、

もはや誰からも教えられようとしません。

一方、教育を受けていない人は、

素直にあなたを見つめ、

福音を受け入れ、

神を信じ、

そしてその信仰による結果を受け取ります。

けれども私たちは、すぐに「理屈で理解しよう」としてしまいます。

しかし皆さん——

神は、人間の理性で理解できるお方ではありません。

神は、計算では測れないお方です。

神は、学問によって知ることはできません。

神は、ただ「信仰」によって知られるお方なのです。もしこの集会で起こったことの十分の一でも、南アフリカや他の国々——あの部族の中で起こっていたなら、何万人もの魂が悔い改め、救われていたことでしょう。

けれども私たちアメリカ人は、

かつてのパリサイ人たちのように立ち去って言うのです。

「あれは悪霊の働きだ。ベルゼブルの力だ。」

しかし、神は正しい民に怒りを注ぐことはなさいません。

裁きが来る前には、必ず心が墮落した状態が訪れます。

——私たちは、まさにその時代に生きているのです。

神よ、どうか私たちを憐れんでください。

ビリー・グラハムがこう言いました。

「なぜ、私たちはリバイバルを持ってないのか？」

それは当然のことです。

神学の理屈だけでは、リバイバルは起こりません。

真のリバイバルとは、

神ご自身が送り出される——罪を打ち砕くりバイバルです。

それは、人々を祭壇に導き、

自己と罪に死ぬところから始まります。

その時こそ、真のリバイバルが始まるのです。

ただ立ち上がって

「私はキリストを個人的な救い主として受け入れます」と言い、

再び座るだけ——

それは、単なる頭の同意にすぎません。

5 新生は**体験**です。神の**賜物**です。それはあなたの**信仰の証印**です。聖霊は**封印**です。エペソ4章30節はこう言います。「神の聖霊を悲しませてはなりません。あなたがたは、この聖霊によって、贖いの日まで**封印**されているのです。」

神はアブラハムに約束を与えられました。アブラハムは神を信じ、信仰によって義と認められました。そして神は彼に、**割礼**というしるしを**封印**としてお与えになりました。今日も同じです。私たちは神を信じます。そして、もし「信じます」と言いながら聖霊を受けないなら、実は**信じていない**のです。なぜなら、神は「あなたが信じたなら**聖霊を与える**」と約束されたからです。

ただし、**信じた瞬間**に聖霊を受け取るのではありません。使徒19章でパウロは尋ねました。「信じたとき、聖霊を受けましたか。」——聖霊は**神の賜物**です。そして神の御霊が人のうちに来られると、その人を**生かし(活気づけ)**、その人は**新しい被造物**となります。彼は永遠の神を信じ、神が**すべてを成しうると**信じます。心は神と**調和**し……ああ、なんと素晴らしいことでしょう。

6 今夜、聖書からお読みしたい箇所があります。私は今日ここを読み、しばらくの間、聖書をかなり学んでいました。というのも、おそらく明日の夜以降は、集会のすべてを自分一人で受け持たなければならないかもしれないからです。

私はいつも、**バクスター兄弟**が恋しくなります。長い年月、私たちは共に歩んできました。まるで彼が私の一部になっているかのようです。彼がプラットフォームにいないと、私は寂しく感じます。最近、私一人で奉仕することが何度かありましたが、つい彼を探してしまうのです。彼は同労者であるだけでなく、**親友**でもあります。

今、彼は私のもとを離れ、アフリカ、インド、ドイツ、パレスチナ、トランスヨルダンなど、多くの地の準備に向かいます。海外宣教は、私たちが整えられしだい、できる限り早く出発します。その前に**政府関連の手続き**を通らねばなりません。ご存じのとおり、インドではすでに宣教師の受け入れが**停止**されています。ですが、**ネルー氏**との会食の機会をいただけたことで、インド入国に少し道が開かれる見込みが与えられています。

7 そこで私は、午後と夜の集会の両方に備え、少し学びを進めてきました。その期間中——説教の合間には、かつてのように、人々を前に呼んで祈る集会も行うかもしれません。聖書が朗読され、御言葉が語られ、神の御霊の働きを人々が目の当たりにするなら、誰もが信仰者になって然るべきだと私には思えるのです。どこにも疑いの影が残らないはずです。

アフリカや他の国々では、人々が一つのしるしを見るだけで十分です。誰かに対する超自然的な神の御業を目撃すれば、会衆全体が確信に満たされます。彼らに必要なのはそれだけです。「正しい」と信じ、そのまま受け入れるのです。彼らは簡易ベッドやストレッチャー、車椅子から立ち上がり、松葉杖を投げ捨てて隅に積み上げ、互いに証ししながら歩き去っていきます——それほど単純なのです。

しかし今の人々は、「それが本物であるか」を見極めたがります。聖書から出ていると分かって初めて、信じるのです。

8 (使徒行伝27:21-25)

「長い間、食事もとらずにいたのち、パウロは彼らの中に立って言った。

『諸君、私の言うことを聞き入れてクレタから出帆しなかったなら、このような害や損失を受けずにすんだはずです。

しかし今、あなたがたに勧めます。**元気を出しなさい。あなたがたのうち命を失う者は一人もいない、失われるのは船だけです。(よく聞きなさい。)**

今夜、**私が属し、私が仕える神の御使い**が私のそばに立って、こう言われたのです。

「恐れるな、パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立つ。そして見よ、神はあなたと一緒に航海している者たちを皆、あなたに与えられた。」

だから、諸君、元気を出しなさい。私は神を信じています。それは私に語られたとおりになるのです。』」

9 主が、その御言葉に祝福を加えてくださいますように。

苦難の時、主の御使いがパウロのもとに来られました。あなたは天使が死ぬと思いませんか?いいえ、天使は死にません。彼らは不滅の存在、死から解き放たれた者です。ですから、あのときパウロのそばに立った御使いは、今夜もどこかに存在しています。ダマスコ途上でパウロに出会い、強い光で彼を照らした主イエス——その同じ主は、今も生きておられ、よみがえっておられます。

周囲を光が照らしました。そうですね?——光です。おそらく、イスラエルの子らが荒野で従った火の柱と同じ光だったのかもしれませんが。闇の中で彼らを導いた火の御臨在。私は、主が今夜ここにおられると信じます。主はきのうも、きょうも、いつまでも変わる事がないのです。その御業もまた……。

「あなたはそう信じるのですね、**ブランナム兄弟**——それは神学にすぎません」と言うこともできるでしょう。けれども、神ご自身がそれを真理として確認してくださるなら、それはもはや単なる“学説”ではありません。真理です。現実となるのです。

10 ヘブル人への手紙11章2節はこう言います——「神はご自身の賜物について証しておられる」。

人は何とでも言うことができますし、主の御名によって語りながら主から出ていないことが多く語られてきたことも、私は認めます。ですが、神は偽りに証ししません。神はいつも真理を弁明(立証)され、決して偽りを支持なさいません。神は偽りと混乱の作者ではなく、平和と真理、聖と義の作者です。神はいつも真理に証しをなさいます。

もし誰かがこう言ってきたとしましょう——「イエスは死からよみがえり、聖霊を遣わされた」と。あなたがそれを初めて聞く人であっても、その人が福音を語り、あなたが個人的な救い主としてキリストを受け入れ、そして聖霊があなたに臨み、それがペンテコステの日に降ったのと同じ聖霊であることが証明されるなら——あなたには、その人を疑う権利はありません。彼は真理を語ったのです。なぜなら、神ご自身が御言葉をもってそれを確証なさったからです。そうです。

11 そして、もし誰かがやって来て「イエス・キリストはきのうも、きょうも、いつまでも同じです」と語り、さらに聖書から——主がどのように生き、何をなさったか——をあなたに読み聞かせるなら、思い出してください。主は自分を大人物だとは主張なさいませんでした。「彼は悲しみの人で、病を知っていた」(イザヤ53章)とあります。荒々しくがなり立てる方ではなく、静かな方でした。しかし語るべき時にははっきりお語りになりました。主は宮の金替え人や商人たちを追い出し、「わたしの父の家は祈りの家と呼ばれるべきだ。だがお前たちはそれを強盗の巣にしている」と言われました。必要な時には、そのように語るお方でした。

それから主は町々をめぐられました。主は「わたしが癒す」とは主張なさいませんでした。こう言われたのです——「業を行うのはわたしではない。わたしのうちにいます父がその業をなさる」。

主は多くの病人がいるところを通られても、すべてを癒されたのではなく、寝床の男を癒されました。ユダヤ人たちが、寝床を担いでいるその人のことで主を問いただした時、主は言われました——「子は自分からは何もできない。父がしておられることを見て、そのとおりにするだけである」。

また、会衆の人々が心の中で思い巡らすことを主はご存じでした。主がお語りになると、彼らの思いを見抜いて言われました——「なぜ心の中で論じているのか」「なぜそうするのか」。主は思い(思考)をご存じだったので。

12 それなら、もしイエスがきのうも、きょうも、いつまでも同じであられるなら、主は死からよみがえり、今も人々の間に生きておられるのです。主はこう言われました——「しばらくすると、世(ここは“コスモス=宇宙”ではなく、“この世の秩序”、すなわち不信の世界)は、もはやわたしを見ない。しかし、あなたがた(教会・信じる者)はわたしを見る。わたしは世の終わりまで、あなたがたと共に、いやあなたがたの内にいるからである」。

だからこそ、主はきのうも、きょうも、いつまでも同じお方なのです。当時の主が今の主であり、これからも永遠に同じです。

神の前に言い逃れはありません。不信仰の言い訳が成り立つ余地はありません。もしそれを求めるなら、それは混じりけのない罪——すなわち不信にほかなりません。

13 今日、ある方と「罪」という言葉について話しました。私は言いました——

「ウイスキーを飲むこと自体が“罪”なのではありません。タバコを吸うこと自体が“罪”なのでもない。姦淫を生き方とすることそのものが“罪”なのでもないのです。」

するとその婦人は尋ねました。「では、罪とは何ですか?」

私は答えました。「それらは罪の属性(結果)です。罪が生み出すものなのです。行為そのものが“根本の罪”なのではなく、罪がそうさせるのです。——同じように、善く生きるからといってそれで“クリスチャン”なのではありません。善い行いはクリスチャン生活の属性(実)です。あなたが罪人であるのは、“信じない”からなのです。」

主イエスは御業をなさった後、人々に言われました——「行って——もう罪を犯してはならない」。ここでいう罪とは何でしょう?——すなわち「これ以上、不信であってはならない」ということです。さもないと、もっと悪いことが起こります。

ですから、もし神があわれみのうちに助け、福音とするしと不思議によって御臨在をここに示してください、あなたが行ってなお信じないなら、それはあなたと神との間のことです。やがて、壇上の病人よりもさらに悪い状態になるかもしれません——そのような事例は何千と見てきました。

14 神を信じなさい。

少しだけ証しをさせてください。——アップショー下院議員が癒やされた夜のことをご存じの方は？……多くおられますね。彼は長年の歩行困難でした。今夜、私が御前に立って誓って言いますが、私はその方を生涯一度も聞いたことがありませんでした（彼が1929年に大統領選に出たことも、私は当時幼子で覚えていません）。

その夜、私は何千人も集まった会場に入り、壇上に上がりました。車椅子の方々が今日ここにおられるのと同じくらい多くおられました。

会衆を見渡していると、幻が見えました。干し草の山で遊ぶ少年が落ちて背を痛み、白い口ひげの医者が手術する——しかし良くならない。床の振動が堪えられず、床板に穴を開けてある様子……。そして私はこう言いました。「やがて彼は大いなる人物となり、演説するようになる。さらにもっと偉大な者になる」と。そこで幻は終わりました。

見回すと、ちょうど一人の老人が車椅子で運ばれてきていました。

15 私を宣教バプテスト教会に任職してくれた、その教会のロイ・デイビス師（ミッショナリー・バプテスト）は、彼（アップショー氏）を私のところへ送りたがっていました。——かつて主の御使いが私を訪れた時、「それは悪夢だ」と最初に言った人でもあります。今では、彼自身が神の癒しを説いています。彼の手紙にはこうありました（『Voice of Healing』で多くの方が読まれたでしょう）——

「もし私が心で後退していなかったなら、最初からあの青年（＝私）を信じていただろう。」

さて、その老人が連れて来られ、私は「あそこにその方が座っておられます」と言いました。私はその時、癒やされるかどうかは分かりません。言い切ることはできません。

有色人種のご婦人が前方におられました。私はべつ甲縁の眼鏡をかけた医者が、その方の上の辺りに立っているのを幻で見ました。その医者が小さな黒人の女の子を手術し、扁桃腺の処置で麻痺させてしまったのです。

私が見たことを口にした瞬間、典型的な“アント・ジェミマ”風の年配の黒人の姉妹が、はるか後方から叫び声を上げ、案内係を押しつけて赤ちゃんを抱きかかえ前へ走って来ました。彼女は言いました。「それが私の子を手術した医者です！」——見ると、まさにその同じ少女でした。彼女は言いました。「この子は良くなりますか？」

私は答えました。「分かりません、お母さん。私に言えるのは見たことだけです。」その時点では祈りの列はまだ呼んでいません。

彼女は泣き続け、係の者が彼女を壇上へ近づけないようにしました。祈りのカードも何も持っていなかったのだと思います。救急車で運び込まれたばかりでした。

私はもう一度会衆の上を見ました。すると何かが現れ始め、筋（すじ）のように見えました。それが伸びて一直線になると、通り（道路）でした。その道を、あの小さな黒人の女の子が人形を胸に抱き、こうして揺すりながら歩いて行くのが見えました。——それで決まりです。地獄の悪魔すべてが束になっても、もう止められません。それで十分なのです。

私は言いました。「お母さん、神があなたに報いてくださいました。」

彼女が「どういう意味です？」と尋ねるので、

「あなたの子は癒やされました」と答えました。

彼女は「ああ主よ！」と叫び、

「この子は良くなるのですね？」

「いいえ、もう良いのです。」と私。

すると少女がむくりと起き上がり、

「お母さん、見て!」と言いました。

会場は歓声と失神で騒然となりました。少女と母親は手を取り合っただけで建物を出て行き、喜び躍りながら互いに証しました。

——私はその子に触れてもいません。癒したのでもありません。

神への彼女の信仰がそれを成し遂げたのです。

私は、主が言わせてくださったことだけを語ったにすぎません。

16 それから、私はふと振り返りました。バクスター兄弟もどこかに腰かけていたはずですが。あの時、彼は確かにそこに立ち会っていました。今夜ここにいる多くの方々も、あの場におられたかもしれません。——そのとき私は、影のように会衆の上を横切っていくものを見たのです。そして、長年車椅子に座っていたあの老議員が進んで行くのが見えました。彼は六十六年もの間、不具で病床の人でした。十七歳のときに転落し、当時すでに八十六歳。アメリカ合衆国のウィリアム・D・アップショー下院議員——十七年の議員歴。時には小さなベッドごと、また車椅子で運ばれてきました。立ち上がるための、体に合わせて当て具を付けた松葉杖も持っていました。ここにいる多くの方が彼をご存じでしょう。彼の演説を聞いた方も多いでしょう。アップショー議員をご存じの方は?——ええ、そうですね。彼はそこに座っていました。

私はふと見ると、彼が茶と白のピンストライプのスーツを身にまとい、帽子に軽く手を添えながら、会衆の間を歩いて行くのが見えました——まるで幻のように。あの(彼が私に真似させた)帽子を、いかにも南部紳士らしく、人々へのもてなしの心を込めて、軽く傾けながら——。私はそのとき、彼が癒やされたことを悟りました。

17 その幻の力はあまりに強く、私は神の御霊の衝撃の下でよろめくほどでした。信者の皆さんには、私が言っていることが分かるでしょう……。私は何とか保とうとしましたが——。

「ブラナム兄弟、そんなことで弱るはずがない」と言う人がいるかもしれません。しかし、なぜ主イエスは、舟の中で波にも起こされないほど疲弊されたのですか。なぜ主は「力(徳)がわたしから出て行った」と言われたのですか。なぜ池の御使いは降りて来てたった一人を癒やすと、しばらく(ひと月も)その働きを止めるのですか。あなたがたはそれを理解していないのです。ダニエルがひとつの幻を見た後、幾日も心痛んだのはなぜですか。——分かりますか。理解は容易ではありません。ただ信じるのです。

18 私はよろめきながら言いました。「もし議員を——神が彼を癒やすおつもりなら……。彼は長年、南部バプテスト連盟の議長でした。何千人もの人々が彼のために祈ってきた。西海岸で集会をしていたジャガーズ氏も、何度も彼のために祈った。オグルヴィー氏も、たしか何度も祈ってくれた。あちらこちらで、六十六年もの間、大勢が彼のために祈ってきた。——神が彼を癒やすなら、骨にカルシウムのある少年のうちにくださってもよかつたろう。老いて脆くなってからではなく……。だが、主イエスが今あなたを完全にされた。立ちなさい。」

そこにいたのは、長年不具でありながら、正しさのために立った男でした。もしウイスキーに迎合していれば、彼は合衆国大統領になっていたでしょう。しかし彼は禁酒の立場を取り、敗北しました。アメリカには彼を支える十分なクリスチャンがいなかったからです。けれども神には、彼を支える恵みがありました。

そして、その八十六歳の老人がそこに座っていたとき、キリストを墓からよみがえらせた力が、その古く縮こまった体を取り上げ、まっすぐに伸ばし、その場で完全に健やかな人にされたのです。彼は普通の人のように、つま先を床につけながら壇上へ歩み出ました。その後、彼は合衆国各地、さらには英国へも赴き、チャーチルの前でも、神の栄光を証しました——癒やされたと。

私は彼に触れてもいません。何もしていません。神への彼の信仰が彼を癒やしたのです。私は彼のために祈りさえしませんでした——祈りは十分過ぎるほど捧げられていました。ただ時が満ちたのです。神が啓らかにされたのです。

19 ——神がそうなさる時というのがあります。ヒゼキヤが神に祈ったときのこと。預言者は彼のもつ

て言いました。「家を整えなさい。あなたは死にます。この床から下りることはありません。」預言者には幻が与えられていました。彼は主から告げられたとおりを王に告げました。ヒゼキヤは顔を壁に向け、それが真の預言者からの言葉だと悟りました。

彼は激しく泣き、こう言いました。「主よ、どうか私をお憐れみください。私は全き心で御前を歩んできました。」(あなたも、こんな証しを持ちたいと思いませんか?)そして言いました。「十五年必要です。」

「何のために?遊び回るためにか?」

「いいえ。神の国のためです。バアルの祭壇を取り壊し、神の祭壇を築き、国を整えるためです。」——そのとおりです。

20 ここをしっかりと見てください。彼は国で最も重んじられる人物であり、今日の言い方をすれば最も敬虔な王の一人でした。ここが要点です。不信者ではない——真の信仰者、神を礼拝する者が、死の床で壁に顔を向け、涙ながらに祈っている。——神ご自身が直接語りかけられてもよさそうに見えます。政治的には国の最高位の人物、王なのですから。しかし神は、ご自分のなさり方をお持ちです。

神は直接ではなく、すでに立ち去っていた預言者に語り、「引き返して、『彼の祈りを聞いた。私は彼に十五年を与える』と告げよ」と言われました。——神はご自分の預言者に語って、王に知らせたのです。

王を癒やしたのは預言者の祈りではありません。王自身の祈りでした。けれども神は預言者を通して語り、御心を知らされたのです。お分かりでしょうか?——アーメン。今夜も同じ神です。

見てください、祈りが何をするか。祈りは死をいのちに変えました。神は「この人は死ぬ」と言われました。私はイザヤが真理を語ったと信じます。彼は預言者として生まれ、その言葉は神から出ました。しかし、ヒゼキヤの祈りが神の御思いを覆したのです。

——ああ、私はこれが大好きです。祈りは事を変えます。神が人の手に託された最も力ある武器——それは、まことの祈りです。

イエスは言われました。「わたしの名によって父に求めることは、何でも、それをわたしがする。」信じてください。一度試してごらんください。真実であることが分かります。

21 ひとつ、小さな出来事を思い出します——時間は迫っていますが、少しだけお許しください。ちょうどリバイバルから戻ってきたところでした。ここから少し行ったところでの出来事です。私はペンシルベニア州エリーへ向かう予定で、バクスター兄弟や仲間たちとオハイオ州トレドでの集会を控えていました。ここにも、あのトレド集会におられた方がいるかもしれません。

家に戻ると、ミルタウン・バプテスト教会の牧師、ホール兄弟(——ウッド兄弟、あなたをご存じですね。ビーラー兄弟も。立派な方で、私の回心者の一人、のちに同教会の牧師に按手されました)。そのミルタウン(インディアナ)では、かつて小さな少女が癒やされたのですが、その子はキリストの教会に属していて、彼らは私を町から追い出したいとまで言っていました。

22 その少女は、結核で九年八か月もの間、仰向けのまま寝たきりでした。名はジョージ・カーター嬢。手紙を書いても、会いに行ってもよいでしょう。ここから車で二時間ほどです。九年も寝たきり。主治医や近隣の人々に会えば分かります。近所の人はこう言っていました——「あの“ホーリー・ローラー”の説教者に来させて、あの子を癒やしてみろ。そうしたら信じてやるさ。」

——それは悪魔の嘘です。福音の説教で信じない人は、何が起きても信じません。あなたは不信の側に定められているのかもしれませんが。

それでも彼らは言いました。「あの子が癒やされたら……」。

父母はどうだったか。父親はその教会の執事でした。こうも言ったのです。「うちの教会員で、あの男の集会に行く者がいたら、書類を持って教会を去ってもらう」と。——それほどに彼らは否定していました。「あれは悪魔の業だ、正しくない」と。

23 しかしついに、その少女があまりにも泣き続けるので……ある午後、私はその家を訪ねました。父母は部屋から出て行き、入って来ようともしませんでした。私はその子のために祈り、そして去りました。その日、その子は声を限りに泣きました。「癒やされたい……」——彼女は癒やされると信じていました。

先日、あなたは彼女のベッドをご覧になりましたか？ あの部屋で——ベッドの棧には、小さな手で掴み続けた跡があり、このように腕を上げることももうできない。ベッドの塗装は剥がれ落ちていました。体重は約三十七ポンド。二十六歳で、九年八か月もの間、仰向けから身動き一つできずにいたのです。

無作法をお許してください——差し込み便器に乗せることもできず、防水シートと引きシートで対応するしかありませんでした。四肢はこの太さほどに痩せ細り、私も見たことがないほどでした。写真をご覧になるとよいでしょう。痰壺に痰を吐くにも、「ハアツ、ハアツ」と息を詰まらせ、器を持ち上げてやらねばなりませんでした。外の木々を見ることも、何一つできませんでした。

24 母親は五十代前半のまだ若い方でしたが、髪はまっ白に変わり、震えに襲われ、九年間、わが子が少しずつ死んでいくのを見守るうちに、そうなってしまったのです。病は喉から始まり、胸へ、女性器へ、全身に及ぶ結核。五年前には見放されていました。

その少し前、私は洗礼式のために出かけました。あるメソジストの兄弟が(皆さんを非難する意図ではありませんが)全身浸礼をからかいました。私はトッテンズ・フォードで浸礼を施していましたが、その人はバイバルの席で「バプテストなんて……」と何やら私を呼び捨てました(言葉は忘れしました)。

やがて彼の回心者たちが川岸に並び、私が川に入って洗礼を授けようとする、——神を証人に申し上げます——その全員が、よそ行きの服のまま川に入ってきて、その午後うちにバプテスマを受けたのです。これは事実です。スミス師——メソジスト教会のスミス牧師のことです。

25 その後、私はライト氏の家で夕食をいただくことになりました。山間部の、かなりの田舎道の先です。私は言いました。「森に入って祈りたいと心に示されています。」

ライト兄弟は言いました。「鐘が鳴ったら、食事の時間ですよ。」

「分かりました。」——夕日が傾いていました。

私は森に入り、ひざまずいて祈ろうとしましたが、棘(グリーンブライア)が刺さります。少し場所を移すと、今度は落ち葉や木片が膝に痛くて祈れない。——こういう時は用心なさい。悪魔の妨げです。戦いが起こる前触れの時、神はちょうど何かをなさろうとしておられるのです。

そこで私は、両手を挙げ、涙が溢れてきました。「主よ、あわれんでください。私には分かりません……」。私は祈りに没頭し、どれほどの時が過ぎたかも分かりません。鐘の音は聞こえましたが、我に返ることができず、ただ御霊に捕らえられていました。

やがて、彼らは捜索隊を森じゅうに出して私を探ることになりました。そのとき私は両手を上げたまま、ふとハナミズキの茂みの向こうを見ました。——すると、あの同じ光が、その枝にとどまっているのです。そこから光が差し、そして御声が言われました。

「カーター家の方へ行きなさい。『主はこう言われる』、彼女は癒やされる。」

26 私はさっと立ち上がり、森を駆け下りました。小さな柵をひと跳びで越えると、ちょうどライト兄弟の腕の中に飛び込みました。彼は言いました。「ブラナム兄弟、母さんが食卓に夕食を並べていますよ。いったい……どこへ行ってたんです？ どうしたんです？」

私は言いました。「ライト兄弟、今は食べていられません。主が小さなジョージ・カーターをお癒しになるのです。」

彼は言いました。「それはいつです？」

私は言いました。「今すぐ、あそこへ着き次第です。たった今、あのハナミズキの茂みで主の御使いにお会いしました。『カーター家の方へ行け』とお告げになったのです。」

ちょうどその時、ブレースという名の人が、テキサスから妻を連れて来たところでした。彼が言いました。「ブラナム兄弟、私も一緒に行って、そのなされるところを見てもよいですか？」

私は言いました。「ぜひ。」

それで私たちは出発しました。同時に、彼女の母親も……(このあと彼女の住所を差し上げます)。どう

か皆さんお一人お一人が、彼女自身の証しを手紙で確かめるか、訪ねて直接確かめてください。ここから少し行けば着きます。町で尋ねれば、どこでもわかるでしょう。

27 道すがらのことです。あの娘はあまりにも泣くので、その日の午後、どうしても来て洗礼を受けたいと言っていたのです。私は彼女のために祈りましたが、まだ癒されてはいませんでした。

私が着く前、母親は、娘が泣くのを見ていられず、別の部屋に入ってひざまずいたのだと言います——ここからは彼女自身の証言で、私はその言葉を繰り返すだけです。彼女は部屋に入り、ひざまずいて、両手を上げて祈りました。「主なる神よ、私たちはこの教会で、夫も執事として、敬虔にあなたに仕えてまいりました。できる限りのことはしてきました。」そして続けました。「あのペテン師ウィリアム・ブラナムがここを通過して、うちの娘をすっかりかき乱していきました。娘は今も死にかけているのに、あの『神の癒し』ということで心が騒がされています。主よ、なぜあんな者を生かしておかれるのですか。」

彼女はさらにひどい言葉を口にし、「なぜ彼はここへ来てこんなことをしたのです？ 私が何をしたというので、こんな目に遭うのです？」と言ったそうです。

やがて祈りの最中に目を開けると、娘が——彼らは立派な大きな家に住んでいます——隣の部屋から来るのだと思いました。窓から差し込む陽光が壁に影を落としていたのです。娘だと思って見上げると、違いました。髭をたくわえ、衣をまとった方が立っておられたのです。

彼女は言いました。「あれは誰が来るの？」そしてこちらの方を見ると、胸に聖書を抱えた私が、額の広いこの顔で、こうして歩いて来るのが見え、二人の男性(ライト氏と、ブレース氏)が後ろに従っていました。彼女は言いました。「ああ、私は寝入ってしまったのね。夢を見ていたのだわ。」

28 彼女は走って行って、「ジジョージ？」と呼びました。

娘は答えました。「なあに、お母さん？」

母は言いました。「何かが起こったのよ。今、あそこで祈っていたら、夢を見たのか、よくわからないけれど、イエスさまが来られるのを見たような気がして、私に向こうを指さされたの。」

ちょうどその時、ドアの閉まる音がしました。私は車から降り(神は両端でお働きになります)、胸に聖書を抱え、ライト氏とブレース氏の二人が後に従って階段を上がっていました。母親は気を失いました。——私はどうやって戸口を通ったのか覚えていません。ドアを開けて、彼女のいるところへまっすぐ歩いて行きました。

兄弟よ、そこにどれほど多くの悪霊がいようと、何があろうとも、神がすでに語られたなら、それを変えるものは何もありません。御言葉は真実で、とこしえからとこしえまで確かです。

そこには小さな信仰者が横たわり、迫害のただ中にあっても、小さな心を神に据え、なおも信じ、祈りとどまっていました。私の祈りではありません。彼女の祈りでした。

私はベッドに近づいて言いました。「カーター姉妹、あなたが長年信頼して来られた主イエスが、先ほど森に御使いを遣わし、『下って行って彼女に手を置け。癒されるためである』と私に告げられました。ですから、どのように立ち上がるかを思い煩わないで、主イエス・キリストの御名によって——起き上がりなさい。」

彼女の脚はあの細さで、九年八か月ベッドから動いたことがないのに、どうやってできるでしょう？ しかし、我が厳正な裁き主なる神は、五分後には彼女を庭に出され、歩き回り、木々を祝福し、草を祝福するようにされました。完全に正常で、元気になって。

29 そこへバプテスタの牧師が……そして父親が納屋から戻って来て、少しの牛乳を下げ、家の騒ぎを耳にしました。母親は気を取り戻し、皆が叫び、泣き、大騒ぎしています。彼は何が起こったのか分からず、娘が亡くなったのではないかと思い、慌てて玄関へ駆け込みました。外で嘲る者たちがからかっています。彼が見たものは何だったでしょう？——オルガンに座って弾いている娘でした。

“Jesus, keep me near the cross; (イエス様、十字架のそばに

There's a precious fountain, 尊い泉がある

Free to all, a healing stream, すべての人に無料で、癒しの泉

Flows from Calvary's mountain.“ カルバリーの山からの流れ)

彼は床に気を失って倒れ、牛乳を落としました。母親の方でも人々が介抱に走り、皆が叫んで——あっという間に町中の人が集まって来ました。

しかし彼らはキリストに立ち返ったのでしょうか？——いいえ。彼女は今、ミルタウン・バプテスト教会で私のピアノ奏者です。あれから六年ほどになりますが、彼女はひどい風邪でさえ寝込んだことがありません。九年八か月、ベッドから起き上がれなかった人が。——それでもなお、彼らの多くは不信のうちに生きています。「悪魔の業だ」と。——それは贖いの外です。

——さて、あの牧師の件でもうひとつ話したいことがあるのですが、時間がありません。たぶん明日の夜に。

30 皆さん、あの少女の癒しに、私は何ひとつ関与していません。私は、主が私に語られたことを彼女に伝えただけです。誰の癒しにも私は関与していません。癒すのは、救いの場合と同じく、あなたがたの神への信仰です。

イエスはカルバリーで死なれた時、そこであなたの癒しと救いを買取られました。一九〇〇年前、ここにいるすべての病人は癒されていたのです。一九〇〇年前、ここにいるすべての罪人は赦されていたのです。ただ、あなたがそれを受け取るまで、あなたの益にはなりません。

もし誰かがやって来て、「私は神の癒し手だ。あなたのために何かしてあげよう」と言うなら——その人は誠実かもしれませんが、聖書を理解していないのです。彼は真実でないことの証言者になっています。

私は根本主義者です。ゆえに、それは『主はこう言われる』でなければなりません。——しかし、兄弟姉妹よ、今夜私は真実を語っています。この終わりの時代に、私たちの主イエスはご自身の民すべてに栄光を帰し、救いと聖霊のバプテスマを、そしてからだの癒しを信じる者すべてにもたらすために、現れておられます。

今夜、祈るとき、あなたが信じますように。

31 我らの天のお父様。神の御子イエスを、また、もの言わぬ偶像に惹かれていた異邦人である私たち卑しい者を覚えてくださることを感謝します。かつて私たちは、希望もなく、神もなく、この世にキリストもなく、神から離れ、罪人の墓、悪魔の地獄へと向かう者でした。

しかしキリストが来て、私たちのために死に、私たちを神に贖い戻してくださいました。主よ、私はその愛を理解できません。どうして、なぜそのようにして下さったのですか。——ああ、でもして下さって感謝します。なんという驚くべき恵みでしょう。私たちの性質があなたに背いていたとき、無条件に私たちを招いてくださいました。「父が引き寄せなければ、だれもわたしのもとに来ることはできない」。——聖霊が私たちを引き寄せ、私たちはキリストのもとに来ました。主は私たちに新生を与え、私たちは信じる者となりました。さらに主は、私たちの只中に再び来て、しるしを伴って御言葉を確証しておられます。

神よ、今夜ここにいるすべての人の心を、特別なしかたで捕らえてください。主よ、この小さな町を祝福してください。他のすべての町と同様に、ここにも古き良きリバイバルが必要です。ですが、このスタジアムを用いる特権を与え、場所を提供して下さった人々、市の関係者、その背後にあるすべてに、心から感謝します。神よ、彼らが地獄の塵を噛むことのないように。救いを与えてください。どうかこの親切に報いてください。

すべての教会を祝福してください。中には信じない所もあります——それでもなお、あなたの恵みが彼らにも及びますように。私たちは心からそう願います。あなたは私たちの心をご存じです。どうかこのリバイバルが、あらゆる教会、周辺のすべての教会の助けとなりますように。

32 そして、新しく生まれ、聖霊に満たされたあなたの子らの心を、神よ、柔和にしてください。私たちが受けた大いなる召しにふさわしく歩む者とならせてください。あなたのために生き、教え、人々のために祈り、病める者、さまよえる者、打ちひしがれた者に仕える者とさせてください。父よ、どうか聞き届けてください。これをどれほど長く続けられるか分かりません。やがて私も道の終わりに至ります。主よ、昼夜の激務のうちに肩は落ち、その日が近づくのを感じます。まもなく私もまた答えねばならないでしょう。

主よ、かつて願い求めました——渡し場でのもめごとは願いません。渡るときには、すべてが澄みきって

いますように。その日、私はここでいのちの古い剣を抜き、それを永遠の鞘に納め、両手を上げ、兜を脱ぎ、盾を置き、叫ぶでしょう——「救命艇を出してください。向こうへ渡りたいのです。」そして、私たちの弱り果てた魂を、ヨルダンの向こうの良き地へ——病もなく、罪人や病人のための祈りももういらぬその地へ——運んでください。そのとき、私たちはイエスと共にあります。

父よ、今夜のこの集会在、多くの者がその時の備えをするきっかけとなりますように。さらに、多くの病める者、すべての病人、悩める者が癒されますように。キリストの御名によって願います。アーメン。

33 [テープ中断]——皆さん、ただ神を信じてください。神はあなたを癒されます。すでになされたのです。あなたはそこに座ったままそれを受け入れるだけでよいのです。——それだけです。ただ受け入れるのです。「今信じます」と言ってください。感じがどうであろうと、それは問題ではありません。主は決して「感じたか」とはお尋ねになりませんでした。主は「信じたか。信じたか」と言われたのです。

では……最初の祈りのカードから行きましょう。最初の十五枚ほど、並んでください。[テープ中断]……今夜はイエスを見上げるのです。そうすれば、どのような状態であれ、ここに座ったままでも神はあなたを癒されます。

この辺りの方々が信仰を持てるなら……。——そこに、南アフリカから奥さんを癒していただくためにはるばる来られた紳士が座っておられます。南アフリカから飛行機で連れて来られました。そうですね？ 神があなたを祝福されますように。姉妹、あなたも。あなたのご病状は分かっています。昨夜もお見かけしました。あなたの問題は見えています。今、私は何かが起こるのを待っています。主が告げられる時、あなたをお呼びします。車椅子なしでふるさとへお帰りになれるよう祈っています。あなたが到着された時、私はそこにいて、あなたが証しされるのを見たいのです。

——ええ。そして、こちらには通り一本渡ろうともしない人たちもいるのです。——そういうことです。

34 誰が祈りのカード O、番号を持っていますか？……[テープ中断]……火——おそらく、パウロの周りに輝いた光、ダマスコ途上で彼を打ち倒したあの光。そうでしょうか？ 火でした。その火は火の柱でした。

よくご覧なさい——火の柱。主は「火の雷雲」とも「大きな火の塊」とも言われませんでした。火の柱だと言われました。柱とは何か、わかりますね？ 火の柱です。

ここにジョージ・J・レイシー氏の鑑定書の写しがあります。望まればフォトスタットの写しを入手できます。本にも収録されています(二冊ともにフォトスタットを掲載)。ただし著作権の関係で、取得には許可が必要です。私の所有物でもありませんし、営利には一切用いません。実費のみ。テキサス州ヒューストンのダグラス・スタジオが所蔵しています。私は関知しません。

レイシー氏は、FBIの鑑識部門の責任者で、米国で——おそらく世界でも——最高の指紋・写真鑑識の権威です。彼が数日間これを調べ、「紫外線を通して見ると琥珀色の光に見え、種々の検査を通して、渦巻く、うねる炎のようである」と述べました。

その写真をお持ちの方は、間近でご覧ください。周囲を走る炎、翻り、燃え巡る様子が見えるでしょう。——これこそが、このプラットフォームに来られるお方です。あなたのこの兄弟(私)ではない——彼なのです。

35 私の考えでは、神——神の御子イエス・キリストは、パウロに現れたあの時とまったく同じお方です。私は、ペテロが投獄されていたあの夜、牢に差し込んだ光——神の御使いを今も同じだと信じます。信じませんか？ 輝く光が入って来るのです。

また、パウロが島で、いや船上で危機にあったあの夜、共におられたお方も、今日も同じです。そう思われませんか？ パウロの確信をご覧ください。——(十四日十四夜、救いの望みは全くないように見えた中で)彼は言いました。「元気を出しなさい。神の御使いがこう言われた。そのとおりになる。」そして、「諸君、私は神を信じる。私に示されたとおりになるのだ」と。

さて、よく注意してご覧なさい。私の言葉ではなく、彼が語られることに耳を傾けてください。そして、油注ぎが動くときに彼が語ること——それは録音に残っています。私たちはそのために保存しています。確かにどうか、追って確かめなさい。世界中どこでもよい。何千件もの予告(何年も前のものさえ)から、一度でも「その通りにならなかった」例があるか、探してみなさい。

それが各地で検証されていることをご存じの方は、手を挙げてください。——はい。書籍に載っている証言には、医師の正式な証明も添えられています。どうぞ遠慮なく照会し、真偽を確かめてください。辿ってみてください。正しいと分かるはずです。——それは数千のうちの一部にすぎません。

36 では、静かに——よろしければ、祈りの心に入りましょう。今からしばらくの間、小さな子どもたちも、どうかよい子でいてください。主イエスが降りて来られるかもしれません——日曜学校の先生があなたに教えているあのお方です。主は、お父さんやお母さん、あなたのお友だちの家族を助けようとしておられます。それが、主がここにおられる理由です。

息子が教えてくれましたが、私は「火曜日の夜」と申しました。集会が終わるのは水曜日の夜です。火曜日ではありません。火曜日ではなく水曜日の夜でした。——ありがとうございます。

37 さて、次は患者さんです。〔テープ中断〕

さっきあなたが祈りをやめたその時、聖霊があ的女性のところに来られる前に、ひらめきがあなたに走り、姉妹。いつか、やがて来る大いなる日に、あなたはおそらく理解するでしょう。写真でご覧になったあの光は、今ここにあります。今、私から二フィートと離れていません。本当です。これは別の「感覚」です。どこにおられるか分かります。近くにおられるのが分かるのです。さっき、あの小さな女の子の上に光が走り、そしてまたここ、プラットフォームへ戻って来るのを見ました。

さて、そのご婦人……もちろん、私はあなたを存じません、姉妹。けれども、敬虔に来られるなら……もしあなたが神を信じ、神があなたを助けるためにここにおられると信じるなら、私が牧師としてできることは、イエスが御言葉で言われたことをお伝えする、それだけです。牧師として私にできるのはそこまでです。

38 それに加えて、神は私に、たぶんもう一つ別のことをなす賜物をくださいました。先見者(シーア)とか、預言者とか、呼び方は何でもよいのですが——神からの賜物を受けた僕としての務めです。それは私が赤ん坊、ほんの生まれたての小さな子の時に臨んだのです。

私は……母が言うには、生まれてから三、四分ほどで、小さな木の窓を開けると、そこへそれ(光)が入ってきたのだそうです。ご覧の通り、私は自分では何もしていません。これは神の愛です。もし私が自分の働きを選べたなら、きっとこれではなかったでしょう。別の道を選んだと思います。私は、バクスター氏のような「説教者」になりたかった。けれども、神はこれを私にさせたいのです。私はそれを神のためにできることを喜んでいきます。というのは、神は私に、病める人々のために祈るという務めを割り当てられたからです。

ふつうの牧師は、私たちがこの働きで受けるような批判を受けません。これは(講壇だけの)十字架ではありません……夜通し心を悩ませ、人々の重荷を負い……ここでのように、あなたの信仰が前へ出て挑まねばならないということは、ありません。ですから、もし私が牧師としてどこかの大きな教会で福音を宣べ伝えられたなら、その方がずっと人気もあり、楽だったでしょう。けれども、それは私の分ではなかったのです。

39 今、あなたと話して分かります——あなたはとても重い病です。最近医者にもかかりましたね。そして医者も、あなたが重病だと知っています。あなたには一種の腸の病がある。そうですね？ 医者がカルテに何と書いているか見ようとしていました。間違いなければ——腸に腫瘍性の病変がある。そうですね？(「はい、そうですね」)私はそこにはいませんでしたが、今ここに立っておられる「お方」は、そこにおられました。今、もし私がその方に願えば、あなたは癒されると信じますか？ 信じますね？ では、こちらへ。少しだけ。

全能の神、天と地の創造主、永遠の命の与え主、すべての良き賜物の賜い手よ。この重い病の私たちの姉妹に、どうか憐れみを。将来の歩みと決断に、御導きを与えてください。全能の神よ、彼女の命を守ってください。サタンが彼女を早世の墓に葬ろうとしているのを知っています。イエス・キリストの名によって、彼女を癒してください。アーメン。

神が祝福して下さいますように、姉妹。喜んでお帰りなさい。主が共におられますように。

40 さあ、こちらへ。——直前になると、私は時々、何が現実で何が幻か分からなくなるところまで行きます……皆さんには想像しにくいでしょう。集会が長引くと、通りで人に話しかけていても、その人が実際に目の前にいるのか、ビジョンで見ているのか、分からなくなることがあります。それがどういうことか、あなた方は分かりません。

少し休む間の短い証しです。先ほど祈られたご婦人はどちらへ？ ここにおられますか？ 奥さま、主があなたに語られたこと——それは真実でしたか？ あなたのことに語られたこと、真実でしたか？

ここで語られたこと、真実でしたか？ 真実なら、手を上げてください。——それで、ここにいる人は皆、信じるべきです。もう何も要らないはずです。

41 モーセは、一度しるしを民に示すと、その後は皆が彼を信じました。そうですね。もう何度も繰り返す必要はなかった。ヘブル人に会うたびごとに、同じことをする必要はなかったのです。

私が時に誤るのは、まず一人、次にまた一人、と順にしてしまうことだと思います。本来は、一度委ねられたら、それで決着がつくべきです。真実なら、その場で片がつき、前へ進めばよい。——それでよいのです。そうすれば、あなた方は私の言うことを信じるでしょう。

そして私が言っていることはこうです。これが教えです。——神に関する限り、ここにいるすべての人は「1900年前」にすでに癒されています。もしそれを信じ、受け入れるなら、家に帰りなさい。あなたは良くなります。これは真実です。

42 以前、ここにある婦人が集会に来ました。胃の病でした。祈りを受けて帰る時、私は彼女が食べ物を口に行っている幻を見ました。そこで言いました。「あなたは良くなります。帰って何でも召し上がりなさい。」

彼女は帰って、私が言った通りにしようとしていました。ところが、どうでしょう——ひどく具合が悪くなったのです。三、四週間、食べようとしてもダメ。食べれば焼けつくように痛み、吐いてしまう。

ある朝、彼女は立って皿を洗っていました(これは彼女の証言で、数あるうちの一つです)。前夜食べたせいで、胃が焼けるように痛む。ひどく空腹になり、ふと見ると、子どもがテーブルにトーストを一切れ残している。彼女はそれを手に取り、食べ始めました。どうせすぐ吐いてしまうだろうと思いながら。ところが——何ともない。焼けない。次にオートミールを食べました。いつもなら最悪なのに、今回は大丈夫。コーヒーも一杯飲んだ——それも大丈夫。気分が良い。小一時間待っても、悪い反応は何もない。

彼女は通りの二ブロックほど先に、首に小さな脂肪腫(真菌性のこぶ)のある隣人がいるのを思い出しました。——その人にも「良くなる」と語られていました。そこで家を閉めて、喜びながら急いでその隣人に知らせに行きました。「私、食べられるの。気分が良いの。」着いてみると、隣人は大声で叫んでいます。——その朝、その人の喉の腫瘍が消えていたのです。

43 それからどうなったか？ 二人とも、集会に戻って来ました(バクスター兄弟は覚えているでしょう)。それから数週間、六週間か、もっと後のことです。もし彼女が「不信」だったらどうなったでしょう。

祝福が宣言されても、すぐに起こらないことがあります。けれども、それは「必ず」起こるのです。

ご覧なさい。ダニエルは祈りました。主の御使いはその祈りを聞いていましたが、彼のもとへ来るまでに何日かかりましたか？ 二十一日です。

あの婦人には、祝福が宣言され、ビジョンが示されました——彼女の病と、どうなるかが。時には、本人に何も告げないこともあります。もしその人の周りが「明るく」なれば、私はただ任せます。「暗く」なる時は、やはり任せます。暗いというのは、現状のままではそうならないという意味です——けれども、祈りが事態を変えることがある。ヒゼキヤを見てください。

44 アフリカでのことです……(あなたはアフリカでの集会に出られましたか？ 出られましたね。)ダーバンでの夜、覚えておられますか？ ある女性に「もう長くは生きない」と告げた時のことです。彼女は——たしか婦人科系の問題——見た目には誰にも劣らぬ健やかさで、プラットフォームを歩いて来ました。私は言いました。「あなたの医者、卵巣に小さな腫瘍、線維腫のようなものがあると仰いましたね。」

「はい、その通りです」と彼女。

私は言いました。「死の備えをしなさい。あとわずかししか生きません。」——三十分後、彼女は息を引き取りました。私は、彼らが彼女を担ぎ出すのをビジョンで見っていたからです。つまり、既にそうなることが示されていた。もし「暗い」だけであれば、祈りで変わる余地もあります。けれども、主が何かを言われたら、その通りに信じなさい。必ずその通りになります。見ていなさい。

さて、鍵は「あなたの信仰」です。私はあなたのために祈れますが、成るか否かは……ここで何が起こるかにかかっています。

45 アフリカでのことです……(あなたはアフリカでの集会に出られましたか？ 出られましたね。)ダーバン

での夜、覚えておられますか？ ある女性に「もう長くは生きない」と告げた時のことです。彼女は——たしか婦人科系の問題——見た目には誰にも劣らぬ健やかさで、プラットフォームを歩いて来ました。私は言いました。「あなたの医者、卵巣に小さな腫瘍、線維腫のようなものがあると云いましたね。」

「はい、その通りです」と彼女。

私は言いました。「死の備えをきなさい。あとわずかししか生きません。」——三十分後、彼女は息を引き取りました。私は、彼らが彼女を担ぎ出すのをビジョンで見っていたからです。つまり、既にそうなることが示されていた。もし「暗い」だけであれば、祈りで変わる余地もあります。けれども、主が何かを言われたら、その通りに信じなさい。必ずその通りになります。見ていなさい。

さて、鍵は「あなたの信仰」です。私はあなたのために祈れますが、成るか否かは……ここで何が起こるかにかかっています。

46 奥さま、私たちは初対面です。私はあなたを知りません。神も、私があるあなたを知らないことをご存じです。聖書はここに開かれています。今、ここにられる神は、私があるあなたを全く知らないことをご存じです。もしあなたが良いことのためにここにられるなら、それが与えられるよう祈ります。神がそれを明らかにし、あなたを助ける何かを示してくださるよう祈ります。もし偽りの心で来られたなら、すぐ分かります。神はそれも指摘されます。神は神、私たちはただの人間です。

あなたは「心臓」のことで祈ってもらいに来ましたね。そうでしょう？ ——とても悪い心臓の状態です。問題を言いましょ。あなたの「心臓弁」が閉じかけています。そうですね？ 神があわれまれば、長くはありません。

それから、もう一つ大事なこと。——私を神の預言者と信じますか？ ——信じますね。ありがとう。井戸端でサマリアの女に語られた「同じイエス・キリスト」が、彼女の悩みを知っておられました。何が原因かもご存じでした。今夜あなたに必要なのは、個人的な救い主としてのイエス・キリストです。あなたは罪人です。——そうですね。過ちを犯してきました。キリストを受け入れたことがない。——今、受け入れますか？ 今、彼をあなたの救い主として受け入れますね。あわれみも求めました。医者は首を振っています——望みがないと。けれども、もし神がこの心臓病からあなたを生かしてくださるなら、一生涯彼に仕え、彼のために生きると約束しますか？（「はい、します」）では、こちらへ。

47 全能の神よ。あの日、サマリアの井戸のほりにおられ、愛する御子イエス・キリストの上にとどまっておられたあなたの御霊は、昨日も今日も、とこしえまでも同じであることを確証し、「わたしのする業を、あなたがたも行う」との御言葉を真実とするために、地に戻って来られました。

ここに立つこの女性は、罪多き生涯のゆえに、あわれみと赦しを求めています。彼女はいま、あなたに自分の人生を明け渡します。「神を愛する者には、万事が益となる」と私たちは教えられています。主よ、彼女はこの心臓の病で死にかかっています。どうか癒してください。あなたの御霊が彼女に臨み、すべての罪を赦してください。今夜ここを去るとき、癒され、以後の生涯、あなたに仕えさせてください。イエスの名によって祝福を祈ります。アーメン。

あなたは今、クリスチャンです。——さあ、行って、もう罪を犯してはなりません。そうすれば、あなたは良くなります。神の祝福がありますように。

（婦人が何か語る）彼女に証しさせましょ。——（「今、とても幸せです。もう行く準備ができました。癒されるかどうかは問題ではありません」）

神に感謝します。

我らの主イエス・キリストを批判する方々へ——どうお考えですか？ 彼はなお主であります。信じなさい。信じますか？ 彼に信頼を置きなさい。神が成就なさいます。

48 あなたは気分が良くなりましたね？ あなたの隣の小柄なご婦人も、癒されたいと願っています。彼女は湿疹を患っています。そうでしょう？ 見た目には分かりにくいですが、確かにあります。そうですね？ ——そこで今、救われたばかりの彼女の周りに、光が渦巻いています。神は彼女と共におられます。救われたばかりのご婦人、どうかその方に手を置いてください。

主よ、今この方を祝福し、イエスの名によって癒してください。アーメン。お二人とも、神の祝福がありま

すように。

さあ、こちらへ。心から信じますか？ これらのことが神から来ていると信じますか？ たとえ私があなたについて一言も告げられなくても、なお信じますか？ ——もし私が「あなたのために祈ります」とだけ言っても、それで十分ですか？ ——それが「信仰」です。

同じように信じる方、どれくらいおられますか？ 「私のために祈ってください。私は良くなります」と言える方。ありがとうございます。今、信仰が動き始めました。信仰の壁が夜ごとにせり上がり、ますます強くなっています。耐え、進み続けるなら、ここで今まで見たことのない「解き放ち」を見るでしょう。不自由な人が歩くだけではありません。あなたがただ信じるなら、それは神の栄光となるでしょう。

49 主イエスがこれらを成し、私たちにあわれみを注がれますように。

さて、奥さま。私たちは初対面ですね？ そう、初対面です。ええ。私はあなたに会ったことはありません。あなたについて何も知りません。本当です。しかし神はすべてをご存じです。——私は感じます、あなたはクリスチャンです。クリスチャンのご婦人、そしてクリスチャン家庭のご出身。そうですね。あなたには病気のご主人がいる。「はい」あの、そこに立っている方がご主人ですね？ そうです。

ご主人、あなたは糖尿病ですね？ そうですね？ こちら側へ少し回ってください。列にお入りになる必要はありません。

さて、奥さま。あなたは重篤な状態にあります。乳房に癌がある。そうですね？ 肝臓にも、腎臓にも、心臓にも問題がある。医者は手術できないと言っています。というのは、癌を取るために麻酔をかけると、あなたの心臓の状態では麻酔で命を落とす、と。そうですね？ そうなら、手を上げてください。では、こちらへ少し。

全能の神、いのちの与え主、あらゆる良き賜物の賜い手よ。この儂い人の上に祝福を。彼女と夫が家に帰り、癒され、長く幸せに暮らせますように。この癌と、体のすべての病、そして心臓の病を呪います。イエス・キリストの名によって、これらが彼女を離れますように。アーメン。

神が祝福して下さいますように、奥さま。喜んで帰り、幸いでありなさい。主が共におられます。——よろしい。

神を信じなさい。神はすべてを成し遂げられます。

50 こんにちは、若者。今見たものが神の御霊によると信じますか？（「もちろんです。主をほめたたえます」）ありがとうございます。——あなたは療養所の付き添いのような仕事をしていますね？（「そうです」）そうですね。精神科系の施設でしょう？ そうです。あなたは顎を打たれ、それで頭痛に悩まされている。そうですね？ 家に帰りなさい。あなたは回復します。神があなたを癒されます。神の祝福を。アーメン。——次。

さあ、可愛い子。小さな心を祝福しましょう——心臓が悪いんだね。しばらくこの赤ちゃんのために頭を垂れましょう。

主イエスよ、この小さき者にあわれみを。癒してください。私が手を置き、あわれみを祈る時、癒しを与えてください。イエス・キリストの名によって。アーメン。

神さまが祝福して下さいますように。今、元気になると信じる？ イエスさまはあなたを愛しているよ。知ってる？ もし主がここにおられたら、あなたの良くないところをご存じで、手を置いて祝福され、心臓の病を乗り越えられる。——そうだね？ 良くなるよ。イエスさまが、ブラナム兄弟をそのために送ってくださったと信じる？ 神さまの祝福があるように。

それから——あなたの身内に、耳が遠い人がいるね？ そうですね？ あなたの家の方で、聞こえづらい人がいる。今夜帰ったら、その人に手を置いてあげなさい。——その人も良くなるでしょう。神の祝福を。

51 奥さま、前のように家で夕食をおいしく食べたいですか？ ——では、どうぞ。神があなたと共におられ、祝福し、そうできるようにして下さいます。神の祝福を。あなたの胃の病は去ります。主が助けて下さいます。

では、次のご婦人。

神を信じなさい。

そこのご婦人、胆のうの病から解放されたいですか？ 立ち上がってください。——少し前に、主はあなたを癒されました。私はそれを見ましたが、あなたご自身が受け取るまで待っていました。——今、主の祝福を。行きなさい。あなたには胆石がありますが、それは流れ出て、すべて良くなります。恐れてはなりません。

ひどく神経が張っていますね、奥さま。それは、あなたをそうさせる悪しきものです。本当は多くの病があるわけではなく、「神経」が主因で、何もかも悪いように感じさせているのです。黒い稲妻のようなものがあなたから走り、雲のような、息の波のようなものが動く——それで怯えてしまう。夕方、日が沈む頃になると、たびたび酷く疲れるでしょう？ そうですね？ 気がおかしくなりそうだと思うことも多い——でも、なりません。落ち着きなさい。あなたは大丈夫になります。

私を主の僕と信じますか？ では今……確かめましょう。あなたはずっと祈ってきて、「ここから踏み出す」と言える「出発点」を求めてきましたね？ そうでしょう？ ——よろしい。これがその一歩です。今、行きなさい。主イエスの名によって癒され、健やかにされなさい。アーメン。

神を信じなさい。

52 さあ、奥さま。信じますか？ ——心から。よろしい。その調子です。神を信じなさい。私を主の預言者と信じますか？ 信じますね。見たところ、とても健康そうですが、病があります。——結核です。主が癒してくださると信じますか？ こちらへ。

主イエスよ、ここのご婦人を癒してください。この悪が彼女を離れ、あなたの聖なる御名イエス・キリストによって、彼女が癒されますように。アーメン。

神の祝福を。今、行って喜びなさい。あなたは良くなります。——恐れるな。ただ信仰を持ちなさい、姉妹よ。神はそれらをあなたに与えられます。——はい、奥さま。私が言った通りにしなさい。喜びと感謝で、ここを出なさい。そうすれば、それ(病)は去ります。——今、信じますか？ 私の言う通りにし、これからは「否定的な告白」をやめなさい。「主よ、感謝します。私は心から信じます」と言い続けなさい。主の御言葉は、今ここでも、あなたが癒されたと言っています。信じるなら、あなたは大丈夫です。神の祝福を。喜んでお行きなさい。

53 ご主人、背中からの痛みから解放されたいですか？ では、こうして身をかがめ、「主を賛美します」と言ってください。(「主を賛美します」)——さあ、喜んでお帰りなさい。癒されました。

「神に感謝します」と言いましょう。神を信じなさい。

こちらへ、兄弟。——心から信じますか？ もし神が、あなたの状態を私に明かされたら、あなたは癒しを受け入れますか？ ——受け入れますね。あなたは心臓が悪い。そうですね。さらに、それを悪化させる「癆」があります。——そう、喫煙です。そうですね？ 捨てなさい。神は誰にも喫煙してほしくありません。それは忘れて、前へ進みなさい。心臓も良くなります。神の祝福を、兄弟。主イエスがあなたを祝福し、健やかにされますように。

では、次のご婦人。信じますか？ 婦人科の病から解放されたいですか？(「はい」)——行きなさい。神に感謝しなさい。(「ああ、神の栄光。ありがとう、イエス様」)

今信仰を持ちなさい。疑ってはいけません。

54 あなたも、たばこをやめたいと望んでいましたね？ ——そうですね。良いでしょう。今、立ち上がり、神からの救いを受け取りなさい。そうすれば、たばこはあなたから離れ、もう苦勞することはありません。

それは「汚れた霊」です。人々を悩ませようとします。

さて——心臓の病から解放されたいですか？ 良いでしょう。

神よ、彼を癒してください。イエスの名によって、健やかにしてください。アーメン。

「主よ、感謝します」と言いながら喜んで行きなさい。癒されます。

——姉妹、信じましたね？ 私が「心臓の病」と言った時、胸がざわついたでしょう。まさにあなたのことだからです。あの方は神経性の心臓でしたが、あなたは詰まり(閉塞)です。少しこちらへ。

主イエスよ、まだ若いこの女性を癒してください。あなたのあわれみで彼女を包み、癒してください。イエス・キリストの名によって。アーメン。

今あなたのために祈ったのは、こう願っていたからです——「私のために祈ってくれるだろうか」と。そうしてほしかったからです。神の祝福がありますように。

55 よろしい。

こちらへ、兄弟。私を主の僕と信じますか？ ——信じますね。では、家へ帰って夕食を召し上がりなさい。胃の病は去りました。あなたには神経性が原因の胃潰瘍があり、食べ物が酸っぱくなって、痙攣のように痛む——そうですね？ ——それは今、去りました。夕食を食べなさい。神の祝福を。

主イエスよ、彼を癒してください。イエスの名によって。

「神に感謝します」と言いましょう。

兄弟……ちょっとこちらへ。もう一度だけ話したい。少しだけ。

[テープ中断]……「神に感謝します」。——心から信じますか？ では、どうかこうしてください。こちらを見て、ただ信じるのです、皆さん。——「主よ、心から信じます」と。

兄弟、あなたは、いま「その癖」から解放されたことが分かっていますね？

56 そこに座っているご婦人——腎臓と直腸の病がありますね。そうですね？ 癒しを受け入れさえすれば、癒されます。主イエスが祝福して下さいますように。神が共におられます。主を信じ、疑ってはなりません。

ここにいるご婦人は喉に甲状腺腫(ゴイター)があります——見れば分かります。その隣のご婦人は見た目は平気ですが、副鼻腔炎がありますね？ そうなら手を挙げてください。——はい。

そちらの若いご婦人、あなたはどう思いますか？ 信じますか？ 関節炎がありますね？ ——正しければ手を挙げてください。ええ。信じて受け取れば、癒されます。

その男性、ヘルニアから解放されたいですか？ 癒されると信じますか？ 手を挙げて「受け取ります」と言いなさい。神の祝福を。

ほかの皆さんも、癒されたいですか？

57 そちらの皆さんはどうです？ 担架のご婦人は？ 信じますか、奥さま。ええ、そちらを見ているあなた。こちらを見て。私を信じますか？ ——信じますね。私を神の預言者と信じますか？ ——はい。私はあなたを知りません。あなたも私を知りません。しかし、あなたは手術を受けましたね？ ——癌のために。そうですね？ そして今は、重い腎臓の病がある。——本当なら手を挙げてください。

——癒しを受け入れてはどうですか？ 受け入れますか？ ——では、お立ちください。イエス・キリストがあなたを癒されます。

さあ、残りの皆さんのうち、彼女と同じように今、癒しを受け入れたい方は何人いますか？ ——信じますか？ 立ち上がってください。ここにいる「癒しを望む」すべての人は立ち上がりなさい。互いに手を置き合いなさい。

全能の神、いのちの与え主よ。あなたの祝福をこの民の上に。私は今、この会場にあるすべての病を断ち切る。今、すべての悪しき力の霊を叱りつける。人々から出て行け！ イエス・キリストの名によって、彼らを離れよ！



www.messagehub.info

説教の語り手

ウィリアム・マリオン・ブラナム

"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。" 黙示録 10:7